

伏見稲荷周辺の 住みよいまちづくり 行動計画

～「住んでよし」・「訪れてよし」のまちを目指して～



伏見稲荷周辺の住みよいまちづくり推進協議会

■ 地域の特徴と現状

- 立地性 伏見稲荷大社と住宅が隣接し、生活圏となっている。観光客の動向が地域の環境へ直接的に影響。
- 観光客の傾向 伏見稲荷大社のみに局所的に集中し、周辺部への広がりが少ない。
- 観光客数の動向 新型コロナウイルス感染症拡大以前の5～6年で外国人観光客が急増し、令和2年にコロナ禍により急減。

<伏見稲荷大社周辺の訪問者数の推移>※京都観光総合調査の数値を基に推計（参考値）

		平成 27 年	令和元年	増減	27 年比
日本人観光客	京都市内	5,202 万人	4,466 万人	△ 736 万人	86 %
	伏見周辺	588 万人 (訪問率：11.3%)	661 万人 (訪問率 14.8%)	+ 73 万人	112 %
外国人観光客	京都市内	482 万人	886 万人	+ 404 万人	184 %
	伏見稲荷大社	200 万人 (訪問率：41.4%)	462 万人 (訪問率 52.1%)	+ 262 万人	231 %

*訪問率…京都市内のうち伏見周辺（日本人）又は伏見稲荷大社（外国人）に立ち寄った来訪者の割合

■ 新型コロナウイルス感染症拡大以前の主な課題

観光客が戻れば
以前のような
課題再発の恐れも

ゴミの問題

- 飲食物のゴミのポイ捨て
- タバコの吸殻のポイ捨て 等
(火災の恐れも)



マナーの問題

- 自撮り棒による写真撮影
- 歩道をはみ出して歩行
- レンタサイクルの放置 等



車・歩行者の混雑の問題

<車>

- 本町通に観光客の車が流入
- 本町通の J R 稲荷駅付近に客待ちタクシーが滞留して渋滞
- 師団街道に大社駐車場へ向かう観光バスが集中

<歩行者>

- 鉄道や観光バス駐車場から伏見稲荷大社への経路に歩行者が集中し局所的混雑



コロナ禍によりゴミや混雑等の課題が薄れた一方で、
まちの活力が低下しつつあるといった新たな課題も…

まちの活力の向上に向けて

地域ぐるみの感染症対策

地域ぐるみの「おもてなし」のスキルアップ

住民と事業者、事業者間のつながり・ネットワークの強化

これまでの取組

平成31年3月に地域団体、商店、鉄道事業者、京都市等が連携・協力して対策に取り組む「伏見稲荷大社周辺の住みよいまちづくり会議」を設立し、様々な取組を実施してきました。

コロナ以前の取組

ゴミのポイ捨て対策・マナー啓発の取組		混雑緩和に向けた取組	
ごみ箱の設置	地元商店街の店舗にごみ箱を設置	車の混雑緩和	渋滞交差点（師団街道）の信号機の周期変更（伏見警察署）
	稲荷公園に京都市の街頭ごみ容器を設置（京都市環境政策局）		大社観光バス駐車場への迂回進入路の啓発（京都市産業観光局）
小学校等との連携	稲荷小学校や京都すばる高等学校と連携したごみ箱の製作・設置		JR稲荷駅前の客待ちタクシーの取締り強化（伏見警察署）
清掃活動	地域主体の清掃活動を実施	安全で歩きやすい環境づくり	道路上の看板・商品台等の撤去
路上喫煙対策	5箇所に喫煙防止の路面標示を新設（京都市文化市民局）		稲荷橋補修工事、裏参道の石畳（風）舗装補修工事（京都市建設局）
マナー周知・啓発	商店街のWi-Fi・デジタル看板を活用し、マナー啓発画像を発信		歩行エリアを明示する路面標示の新設（道路利用マナー周知）（京都市建設局）
 		観光分散化	観光快適度の見える化による分散化の推進（京都市産業観光局）
			周辺への回遊を促す「深草・稲荷まちあるきマップ」の作成（龍谷大学）
			「早朝観光おすすめマップ」の作成（京都すばる高等学校）

ウィズコロナの取組

感染症対策、文化・歴史の発信	
地域ぐるみの感染症対策	新型コロナウイルス感染症対策の「研修会」の開催（令和2年8月）
	ガイドラインを遵守し、感染対策を学んだ事業者に「伏見稲荷安心おもてなし店舗」の表示物（ステッカー、のぼり等）を交付（令和2年8月～）
伏見稲荷周辺の文化・歴史等の本質的な魅力の発信	公式YouTube「伏見稲荷チャンネル」の開設（令和2年7月～）
	伏見稲荷ゆかりの方々からのメッセージや地域の文化・歴史等を紹介する動画の配信（令和2年7月～）
	住民・事業者が地域の文化・歴史等を学ぶ「勉強会」の開催（令和2年10月～）

■ 行動計画の策定・地元協議会の設立

「伏見稲荷大社周辺の住みよいまちづくり会議」では、2年にわたる会議での取組や議論を踏まえ、今後、地域が主体となって取り組む内容を「行動計画」として取りまとめました。

令和3年3月 「伏見稲荷周辺の住みよいまちづくり推進協議会」設立

地域住民と商店等が中心となり、地域をより良くするために思いをひとつにして、「伏見稲荷周辺の住みよいまちづくり推進協議会」として、住民・事業者・来訪者の「安心・安全」と「まちの賑わい」の両立を考え、持続的に発展する「住みよいまちづくり」を目指していきます。

■ 次代を見据えたまちづくりの活動指針

伏見稲荷周辺の住みよいまちづくり宣言

伏見稲荷周辺の地域全体を「住んでよし」・「訪れてよし」の魅力あふれるまちとして繁栄させていくためには、私たちがまちづくりの主体であることを自覚し、地域をより良くするために思いをひとつにして、未来志向で創意工夫しながら諸課題の対策に取り組んでいくことが必要であると考えます。

住民の暮らしの安心・安全と地域文化の継承に基軸を置き、住民にとって住みよいまちとなり、また、来訪者にも伏見稲荷周辺の本質を感じていただけるまちとなることを目指し、ここに、地域力を結集し、持続的に発展するまちを築いていくことを宣言します。

私たちは、

- 一、地域の住民・事業者や来訪者の安心・安全なまちづくりを第一に、地域が抱える諸課題に対し、地域住民の声を丁寧に聴きながら、関係機関と連携して継続的に対策に取り組めます。
- 一、地域社会を構成する一員として、さらには、まちづくりの担い手として、地域文化の保全・継承に率先して取り組み、多様な地域活動へ積極的に参加するとともに、自ら企画・実践します。
- 一、伏見稲荷周辺を訪れるすべての方々に、地域に息づく文化・歴史にふれていただくことを本質として考え、日本の慣習を伝え、正しく理解してもらうとともに、私たちも学びを深め、「おもてなしの心」を磨いて来訪者を地域全体で温かく迎え入れます。
- 一、次代を担う子どもたちに美しい伏見稲荷周辺のまちを継承していくために、美化活動や未来を見据えた環境配慮型のまちづくりに取り組みます。
- 一、本協議会の活動が充実するよう常に研鑽を重ね、地域社会の発展に寄与します。

具現化

行動計画

まちづくり宣言を具現化するために、今後概ね5年程度を視野に入れ、取り組むべき内容を「行動計画」として策定

重点的に取り組む3つの柱

柱1 住民・事業者・来訪者にとって安心・安全なまちづくり

柱2 伏見稲荷周辺に息づく文化の保全・継承と発信

柱3 まちの美化・環境配慮型のまちづくり

ウィズコロナ対策（当面の間、取り組むこと）

① 新型コロナウイルス感染症対策の「研修会」の実施

住民，事業者，来訪者の安心・安全を守り，安心して暮らし，働き，訪れていただくために，地域ぐるみで感染症対策を学びます。



② 「伏見稲荷安心おもてなし店舗」の拡大，発信

新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防に向けたガイドラインを遵守し，感染症対策を学んだ事業者に対し，「伏見稲荷安心おもてなし店舗」の表示物（ステッカー，のぼり，スイングポップ等）を交付します。

地域ぐるみで感染症予防を行い，感染の疑いが出た場合にも適切に対応し，来訪者が安心して訪れていただける「おもてなし」の体制を整え，発信します。

③ キャッシュレス化の推進

人との接触の機会を減らして感染症の予防を図るとともに，来訪者の利便性を高めるため，店舗のキャッシュレス決済の導入を推進します。



■ 中長期的に取り組むこと

① マナー啓発・周辺清掃等を行う『地域巡回員』の配置

定期的に地域を巡回し，周辺清掃やゴミのポイ捨て等のマナー啓発，交通ルール等の周知を行う「地域巡回員」の配置を検討します。

② 安全で歩きやすい環境づくり

子どもから高齢者まで歩きやすい環境づくりに取り組み，今後の混雑状況を見ながら，稲荷新道の歩行者専用道路化や，往路は表参道から復路は裏参道への歩行ルートの一方通行化の試行実施を検討します。



道路上の看板、商品台等の撤去

③ 混雑緩和に向けた取組

今後の混雑状況を見ながら，公共交通機関と連携したパーク＆ライドの推進や，大社観光バス駐車場前の道路の東行一方通行化を検討します。

④ JR稲荷駅踏切付近に撮影スポットの設置

踏切内で電車の写真撮影を防ぐため，必要に応じ，安全面を十分に配慮したうえで，踏切から離れた通行の妨げにならない付近に撮影スポットの設置を検討します。

ウィズコロナ対策（当面の間、取り組むこと）

1 伏見稲荷周辺の文化・歴史を学ぶ「勉強会」の実施

事業者や住民が伏見稲荷周辺の文化・歴史を学び、一人ひとりが来訪者に地域の魅力を伝えられるように、おもてなしのスキルアップを図ります。

また、龍谷大学や地域の教育機関と連携しながら、地域ぐるみで伏見稲荷周辺の文化・歴史の保全・継承、発信を行うとともに、地域への愛着を高めていきます。

2 伏見稲荷周辺の文化・歴史の本質的な魅力の発信

伏見稲荷周辺を訪れる方々に、地域に息づく文化・歴史、自然、風情等の本質的な魅力を知ってもらい、ゆったりと訪問していただくための情報を多様な媒体で発信します。

- 公式YouTubeチャンネル「伏見稲荷チャンネル」による情報発信
- 公式ホームページ「神様と共に暮らすまち」による情報発信
→周辺の見所に加え、マナー・参拝作法や地域の文化・歴史等を発信
- 伏見稲荷周辺の本質的な魅力を紹介する「動画」の配信
- 伏見稲荷周辺の文化・歴史に関する「オンライン検定」の実施



公式 YouTube チャンネル



公式ホームページ



動画

■ 中長期的に取り組むこと

1 「まちづくり宣言」推進店舗の認証制度

各店舗が歴史や文化を学び、「おもてなしの心」を磨いて、来訪者を温かく迎え入れる「地域と来訪者に優しい」店舗を認証し、地域が一体となってまちづくり宣言を具現化します。

2 エリア独自の「ローカルルール」の策定

周辺の事業者や新規出店の店舗に対し、地域内における事業活動の指針として、地域活動への参加や文化の保全・継承、まちの美化等に率先して取り組むことを求める「ローカルルール」の策定を検討します。

3 観光案内標識の充実

周辺の名所やアクセスを分かりやすく伝える案内標識の整備を検討します。

4 総合案内所の設置検討

周辺の文化・歴史やマナー等を正しく理解してもらうために、情報の発信拠点となる「総合案内所」の設置を検討します。

ウイズコロナ対策（当面の間、取り組むこと）

1 伏見稲荷周辺のごみ箱設置の拡充

商店におけるごみ箱の設置を拡充し、自動販売機設置業者等への回収容器の設置を進めます。

2 地域主体の清掃活動

地域や商店の日常的な門掃きに加え、定期的な清掃活動を実施します。

3 マナー啓発

商店街のWi-Fiやデジタル看板を活用し、4箇国語でマナー啓発を行います。また、公共交通機関や観光バスに、観光客へのマナー周知を呼びかけます。



■ 中長期的に取り組むこと

1 イートスペースの設置検討

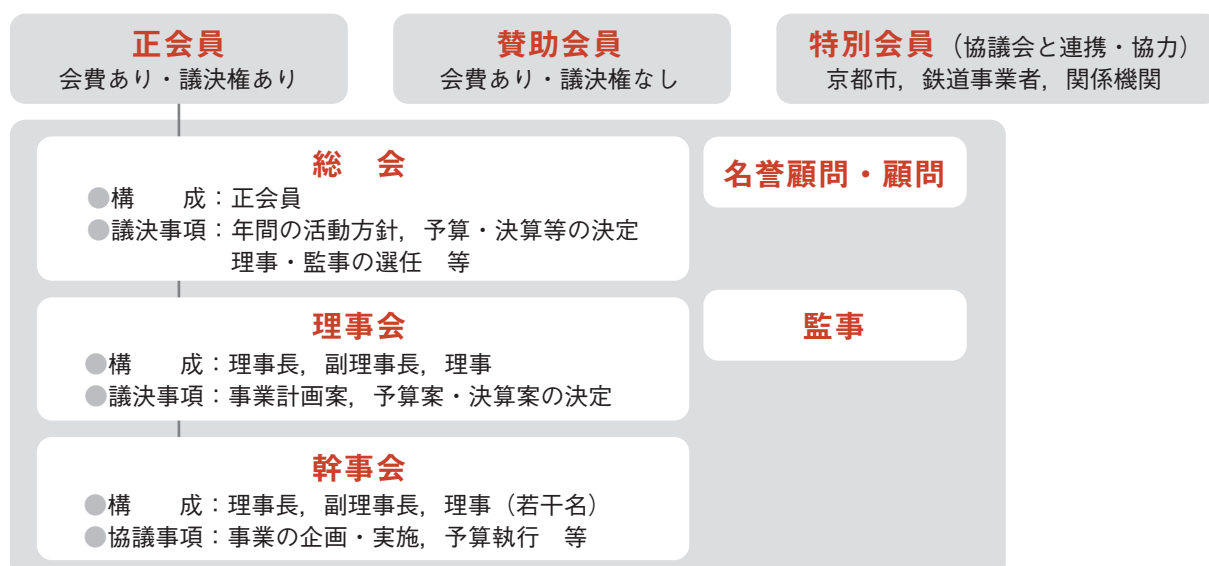
食べ歩きによるゴミのポイ捨て削減やマナー向上に向け、ごみ箱設置やマナー啓発を進めたうえで、必要に応じて、地域内にイートスペースの設置を検討します。

2 脱炭素・プラスチックごみ削減に向けた取組

プラスチック製の容器の削減に向け、テイクアウト店等で「持ち帰りたくなる」稲荷らしいリユース容器の導入など、環境に配慮した取組の試行実施を検討します。

行動計画を推進する組織体制

地域主体の「伏見稲荷周辺の住みよいまちづくり推進協議会」において、行動計画を推進します。





伏見稲荷周辺の住みよいまちづくり推進協議会

発行 令和3年3月

ホームページ <https://inari-machidukuri.jp/>
Eメール meisankan@fusimi-inari.com

